

蕾軒獨語 (其三十二)

鹿ヲ見ル事ガアツテ其レガ爲メ折角研究ノ材料ヲ見出ス事ガ出來ンノデ好機ヲ逸スル事ガ頻々起リコンナ損ナ事ハナイノデアル、醫者トナルモノハ先ヅ第一ニ人體ノ解剖學一般ノ事ヲ學ブノダガ植物學者トナルモノガ普通ノ植物位ダモ知ラヌトアツテハお耻カシイ事デハナイカ、此ンナ人達ガ得テ分類ヘノ惡口ヲたゞくノダ國ヲ富マシ國民ノ幸福ヲ進メル爲メニハツマルトコロ殖産工業ノ發達ガ必要ダガ(特ニ目下ノ我ガ日本ニ於テハ然リダ)其殖産ヲ進メ工業ヲ盛ンニスル植物ノ原料ノ研究ハ先ヅ第一着ニハ植物分類學者ガ負擔スベキ筈ノモノデハナイカ、活眼ヲ開イテ其邊ノ事情ヲ考フレバ植物種類ノ研究ハ國家ヘ對シ學問ヘ對シテ絶對的ニ必要デアル、分類學ヲ卑シメル人ハ右ノ研究ヲモ不用デアルト認ムルト云フ事ニ歸着スルガ此ンナわからず屋ガ我邦ニ多イノハ慨歎ノ至リニ堪ヘナイ

○蕾軒獨語 (其三十二)

○はなびらたけ

蕾軒 朝比奈泰彦

明治三十八年一月發行植物學雜誌第二百十六號第三頁ヲ見ルト高橋良直氏ノ「まひたけ殊ニ其學名ニ就テ」ナル報文ガアル、ソレニヨルト獨逸ノ菌學者 P. HENNINGES (既ニ故人) ハ白井光太郎博士ガ彼地ニ攜帶セル菌譜及菌史ノ兩書ノ圖畫ニヨリテ其學名ヲ鑑定シ其目錄ヲ Hedwigia 誌上ニ發表シタガ其内デ菌譜ニアルまひたけヲ Polyporus frondosus Fr. ニ當テ菌史ノまひたけニ Sparassia ramosa (Schaeff) Schroet. ヲ充當シテ居ル、而シテ高橋良直氏ノ研究ニヨレバ吾國デ普通ニまひたけト稱シテ居ル菌ハ P. frondosus ニ違ヒナイノデアルガ當時白井博士ハ菌譜ノまひたけニ別ニはなびらたけナル新稱ヲ下サレタカラ P. frondosus ニハニツノ和名ガアルコトニナル、所ガ菌史ノまひたけニ當テラレタ S. ramosa ナルモノハねずみたけ科 Clavariaceae ノモノ



まいたけ (菌譜)



まいたけ (菌譜)

デなるのこしかけ科 Polyporaceae ノモノトハ全ク異リ如何シテ HENNING'S 氏が不完全ナル菌史ノ圖ヲ基礎トシテ此ノ斷案ヲ下シタカハ一寸首ヲ傾カセルノデ殊ニ其當時迄 Sparassis ramosa ガ吾國所産ノモノトシテハ文獻上ニハ現ハレテハ居ラナカッタノデアル、ヤット明治四十四年十一月發行ノ植物學雜誌第二百九十八號第四四三頁ニ故安田篤學士ハ仙臺ノ林地ニ於テ S. ramosa ヲ發見シ其記載ヲナシ且ツ『白井氏ノ嘗テまひたけニ命名セラレシはなびらたけノ名ヲ本種ニ移シ以テ稱呼ニ便ニセント欲ス』ト結ンデアルノデ元ハまひたけノ一異名ニ過ギナカッタはなびらたけト云フ名ガモットシツクリアテハマル處ヘ納マツテ誠ニ結構ナコトデアル、ソコデ先ヅ余ハ白井先生ノ貴重ナル藏書ヨリ問題ノまひたけノ圖ヲ轉寫シテ同好諸君ニ御目ニ掛ケルコト、スル又此事ヲ御許シ下サツタ先生ノ御厚意ニ對シ深ク御禮ヲ申上グル次第デアル

所ガ最近秋田縣増田町村田善五郎氏ヨリ下圖ノ如キ Sparassis 屬ノ菌ヲ津村研究所ニ送致サレタ、之ヲヨク見ル



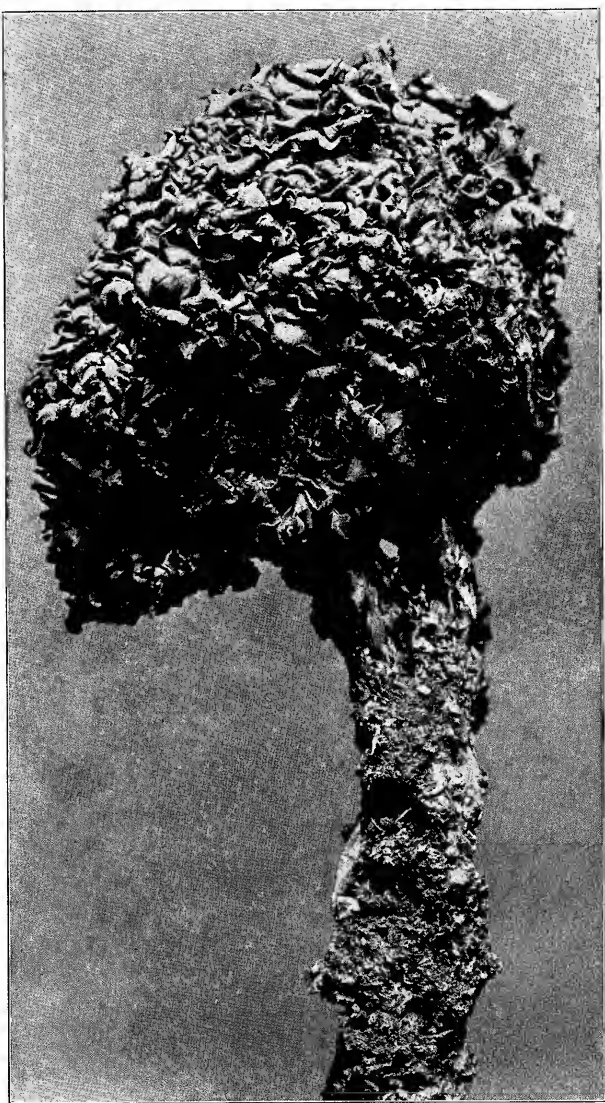
まひたけ (菌史)



まひたけ (信陽菌譜)

トドウモ歐洲産ノ *S. ramosa* (= *S. crispa*) トハ若干違フヤウデ Swanton 著 Fungi and How to know them ト云フ書物ノ第二十八圖版ニアル *S. crispa* Fr. ト *S. laminosa* Fr. トニ比ベテ見ルト寧ロ後者ニ充ツベキモノデハナイカト思フ、安田理學士ノ仙臺デ發見サレタモノヲ見ナイカラ何トモ決定スルコトハデキンガソレガ果シテ *S. ramosa* デアツタカ又此ノ秋田産ノモノト同一デアツタカハ確メタイモノデアアル此秋田産菌ノ胞子ヲ鏡檢スルト安田學士ノ所記ノ如ク球形ニ近キ橢圓形デ *1-1.5 μm* ノ大サヲ有シ油滴ヲ含ンデ居ル、ソシテ全體椎茸様ノ強烈ナル佳香ヲ發スル、歐洲デハ *S. ramosa* ハ食用菌中ノ優等品デ相當高價デアアル、一九二三年獨乙ハンノバー・ミュンデン市ニアル高等山林學校ノ菌學教授 Richard Falck へ Sparas-

ニ依托シ其化學的研究ヲ試ミシコトヲ賴ンダ、ソコデ W. J. 兩氏ハ此ノ結晶ニ「スバラッソール」Sparsolト云フ名ヲ與ヘ且化學的檢査ノ結果「スバラッソール」ハ「エヴェルニシ」酸「メチールエステル」ノ異性體ナリトノ結論ニ到着シタ、然ルニ翌年瑞西ジエネバノ化學者 Pruv^{フア}氏及奧國維納ノ化學者 Späth 及 Jeschke ハ



はなびらたけ (乾ケルモノヲ撮影)

sis ramosa
ノ寒天培養
ヲ試ミツ、
アリシ際其
培養基中ニ
此菌ノ代謝
產物トシテ
常ニ一種ノ
結晶性物質
ノ析出スル
ヲ認メ之ヲ
同僚化學教
授 W. Ede-
kind 及講
師 Fleis-
cher 兩氏

古代砂糖ニ代用セシ甘葛煎ノ基本植物

相期セズシテ同時ニ「スバラッソール」ノ研究ヲ發表シ、[○]兩氏ノ結論ハ誤リニシテ「スバラッソール」ハ「エヴェルニン」酸「メチールエステル」其物ニ外ナラザルコトヲ斷定シタ尙 [○]Pearce 氏ハ歐洲ニ最モ普通ノ地衣 *Evernia prunastri* ヲ「メチールアルコホル」ニテ浸出スルトキハ其越幾斯中ニモ亦「スバラッソール」ガアルコトヲ發見シテ居ル、此ノ地衣ハ *Mousse de chêne* (櫟ノ苔ノ意) ト云フ名デ其越幾斯ヲ香料ニ使ハレテ居ル

○古代砂糖ニ代用セシ甘葛煎ノ基本植物

理學博士 白井光太郎

○本論說ハ曾テ昭和三年十一月一日發行ノ『史蹟名勝天然記念物』第三集第十一號ニテ始メテ發表セシモノナルガ今之レニ多少ノ修補ヲ加ヘテ本誌ニ登載スルコト、セリ

本論文ハ我邦ニ於テ上古ヨリ足利氏ノ初メノ時代マデ砂糖ノ代用品トシテ稱用セラレシ甘葛煎ヲ取リシ基本植物ニ就テ考究シ其何物ナルカヲ審定セシ顛末ヲ記述セシモノナリ

緒言

砂糖ハ支那ニテハ唐ノ太宗ノ時外國ヨリ始メテ之ヲ貢シ甘蔗汁ヨリ取ル物ナル事ヲ知リシト云フ、本邦古代唐ト交通セシヨリ砂糖ヲ知リシハ支那ト同時代ナリシナランモ之ヲ輸入シ食用ニ供スル事ハ久シク行ハレザリシナリ、勿論遣唐使遊學僧等ガ彼國ヨリ少量ヲ持歸リシ事ハ有リタランモ是ハ言フニ足ラズ、本邦ニテハ古代ヨリ足利將軍義滿ノ時代頃マデハ砂糖ノ代用物トシテ餡、蜂蜜ノ他ニ甘葛煎トイフ物ヲ用ヒシナリ、甘葛煎ハ甘葛汁ヲ煎縮セシモノニテ其甘葛汁ヲ取リシ植物ハ和名ヲあまづらト呼ビ漢名ヲ本草ノ千歲藋ニ充テタルモノナリ而シテ甘葛煎其物ヲモ同ジクあまづらト呼ビ來レリ